

きずな

小牧市民病院の理念

- 1 安全で質の高い急性期医療を行います
- 2 恕の心で患者さんに寄り添う病院を目指します
- 3 医療を通じて、安心して暮らせる地域の実現に貢献します

発行者／小牧市常普請一丁目20番地 小牧市民病院 院長 谷口健次 TEL(0568)76-4131
<http://www.komakihp.gr.jp/>



キミと一緒に、生きていきたい。
Komaki

- ニュース ● 感染予防における「手洗い」と「マスク着用」の意義
- 特集 ● ACP(人生会議)について
- 健康教室 ● 咳喘息(せきぜんそく)とは
- 各科だより ● 臨床工学科
- 職場紹介 ● 糖尿病サポートチーム
- 意見箱から ● 患者ライブラリーの図書
- お知らせ ● 市民病院案内図 外来案内など

感染予防における「手洗い」と「マスク着用」の意義

はじめに

中国から発生した新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の拡大により、市民生活に多大な影響を及ぼしています。このため、少し前に掲載した内容ですが、再度皆様に周知するため、掲載させていただきます。

ウイルスが感染する主な経路には、飛沫感染（ひまつかんせん）と接触感染（せつしよくかんせん）があります。

最近では、マスクの着用、咳エチケットなどは広く認知されてきており、飛沫感染のリスクに対する意識は高くなっていることを実感します。しかしながら、皆さんは接触感染のリスクについても十分意識をされているでしょうか？

そこで今回は、ウイルス感染対策における「手洗い」の重要性和、「マスク」の効果についてお話をします。

感染対策で「手洗い」が基本である理由

人が感染症に罹患する要因の一つとして、手に付着した病原菌（細菌・ウイルスなど）が考えられています。病原菌の付着した手で物品に触れることにより、物品に病原菌が付着、それに触れた手を介して鼻や口、目などから体内に病原菌が入るといった具合です。

具体的には、風邪やインフルエンザに感染した人が、咳やくしゃみをしたときに口や鼻を手で押さえ、その手を洗ったり消毒したりしないままドアノブやスイッチ、電車のつり革など、様々な場所に触れることがあります。そういった場所を触った手で、自分の目や鼻、口を触ったり、食事をするなど、ウイルスは体内に侵入します。つまり、手は見た目に汚れていなくても病原菌が付着している可能性があるため、石けんと流水を用いた手洗いの習慣をつけることが、感染対策の基本であり、重要な手段といえます。



「マスク」の効果は？

次にマスクの効果について考えてみたいと思います。マスクは、空气中に浮遊している病原菌をろ過して吸い込まないようにするために着用していると思います。しかし、マスクを着用した場合、顔とマスクとの間にはどうしても隙間ができてしまいます。また、ウイルス対策をうたっているものの、性能は製品によって差があります。このため、マスクをすることによって、ウイルス感染を完全に予防することは難しいと考えられます。さらに、ウイルスは目から感染することもあるので、マスクの予防効果は限定的であることを理解しておく必要があります。

ただし、咳やくしゃみの症状がある人がマスクを着用すると、飛沫の発生を大きく減らすことができますので、「周囲へうつさない」ためにはとても有効な手段だと思われれます。

最後に

「手洗い」や「マスク」の意義をきちんと理解して、日ごろから感染対策に気をつけることによって感染を拡大させないことが大切です。

ACPとは、アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning) の略で、前もってご自身が望む医療やケア、療養に関する希望について考え、ご家族や信頼のおける方々、および医療職・介護関係者等と繰り返し話し合う取り組みのことを言います。終末期には約70%の患者さんで意思決定が不可能になるとの報告もあり、もしもの時に備えてACPを行っておくことの意義が盛んに論じられるようになりました。厚生労働省はACPを身近に感じてもらえるよう「人生会議」という呼称を付け、普及、啓発をすすめています。

どんなことを話し合うか？

がんや慢性疾患などの重い病気に罹っても、自分らしく生き抜くことができるよう、ご自身にとっての最善の方法について考え、周囲の人と共有することが目的です。まずは、病状や今後の見通しについて担当医より説明を受け、ご理解いただくことが第一歩となります。その上で、ご自身にとっての気がかり、大切に思っていること、価値観や目標を踏まえ、治療や療養生活に関する意向について話し合います。また、ご自身が意思表示できなくなったときに代わりに医療・介護関係者と話し合っておくこと（代理決定者）を指名しておくことも重要です。人工呼吸器の装着や胃ろうの造設など延命治療に関わる内容にも話が及びますが、**「する・しない」の結論のみでなく、**

なぜそのような考えに至ったか？も含めて思いを伝えておくと、相互理解がより深まると思っています。

いつ、ACPをはじめるか？

人生の最期に至る軌跡は病気によってさまざまであり、自ら望む医療やケアについて意思表示ができなくなる時期がいつ訪れるのか、予測することは困難です。従って、比較的病状の落ち着いたところであらかじめ話し合っておくことをお勧めします。病気の診断を受けたとき、治療開始や方針を変更するとき、一時的な病状悪化から回復した後など、きっかけは幾つかあります。また、ACPの前段階として、病気になる前の健康なうちに、大切な方との語らいの中で、ごく自然に価値観や将来の希望について触れられていると、差し迫った

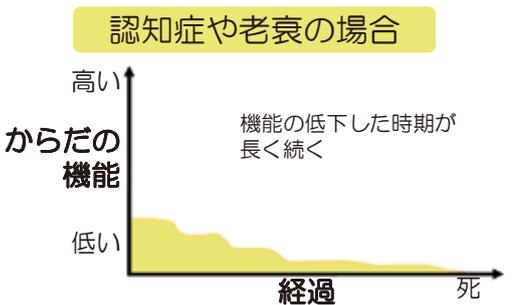
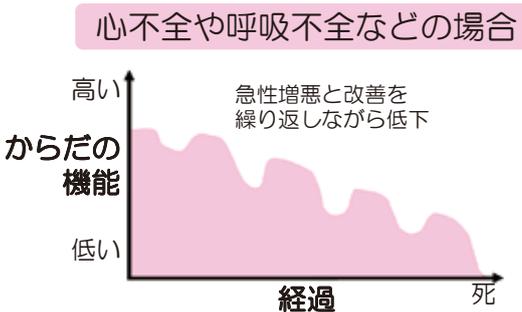
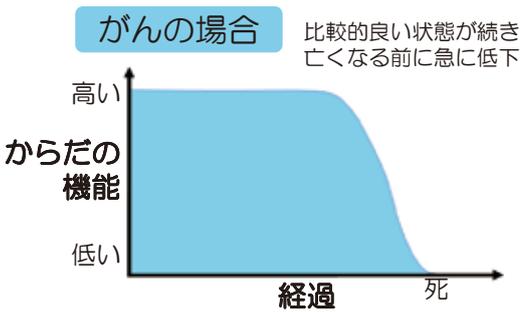
状況での話し合いの際に役立つかもしれません。

当院の取り組み

2018年10月にACP支援チームを発足し、相談員研修を受講した看護師を中心とした支援体制の整備を進めています。まずは、慢性心不全・呼吸不全・腎不全の方で、病状から担当医が話し合いを開始するタイミングと判断した際に、患者さんにご了解いただいた上でACPを実践しています。今後は疾患を限定せず、患者さんが自発的にACPを望まれた場合にも柔軟に対応させていただきます。体制の充実をはかってまいります。ACPに関するご相談のある方は、患者支援センター窓口でお声がけ下さい。

《図》 人生の最期に至る軌跡の例

(Lynn J, et al. Rand Health; 2003.p8 より引用、改変.)



咳喘息(せきぜんそく)とは

—はじめに—

咳が長引くという経験をされた方は多いのではないのでしょうか。風邪の咳が続くこともありますが、咳が3週間以上続く場合も他の病気のこともあります。長引く咳の最も多い原因は「咳喘息」です。空咳が症状となる気管支喘息の一種です。喘息、というと特殊な病気のように聞こえるかもしれませんが、喘息の特徴となる気道過敏性(気管支が刺激に敏感な状態)は症状が全くなくても約20%の人にみられるものです。気道過敏性は気管支の炎症から生まれますが根本的な原因はまだはっきりしていません。この「気管支が敏感な状態」をもっている人が、感染(風邪など)やアレルギー(花粉やハウスダストなど)やストレス(身体的、心理的)などをきっかけとして咳の発作が起きることを咳喘息といいます。喫煙は咳を増幅させるので、喫煙される方は禁煙が必須です。

—診療—

診断は総合的に行います。咳は、就寝前や早朝に多く、気温差や会話や運動で起こりやすくなるのが特徴です。レントゲン検査、血液検査、肺機能検査、呼気一酸化

窒素測定などを行います。気道過敏性はヒスタミン吸入検査で測定できますが煩雑であるため治療薬の効果をみて判断することもあります。

治療は軽症の気管支喘息と同じで、気管支の炎症を抑えるための吸入ステロイド薬や気管支を拡張する吸入気管支拡張薬という「吸い込む薬」が中心になります。1週間程度で咳は減りますが、咳が完全に治っても気管支の炎症は残っているのでここで治療をやめてしまうとまた咳がでてきます。症状によりませんが、3〜6ヵ月毎に薬の数量を減らしていくことが一般的です。最も少ない薬の量でも症状がなければ治療終了を試みますので、3ヵ月以上は吸入薬を続けることになります。それでも吸入薬終了後に咳がぶり返してしまう場合はより長期間の治療が必要です。

気管支の炎症を残したままだと、咳喘息からより症状の強い気管支喘息になります。しかし残念ながら気管支の炎症を調べた検査は確立されていません。いつまで治療を続けるべきか、薬をやめても大丈夫かは予測ができませんので、治療を進めながら咳の様子で判断します。

—治療—

治療に用いる吸入薬の安全性は高いので、診断前の使用や長期治療も安心です。のどの副作用(違和感、かすれ声)も薬を替えることで落ち着くことが多いので、ご自身に合った使いやすい吸入薬を選んでいくことが大切です。ただ安全な吸入薬といえども長い年数で生じる重大な副作用もありますので、数ヵ月毎には治療が症状と合っているのかを確認しながら治療を続けなければなりません。

咳が続く時はまずお近くの医療機関を受診して下さい。診断や治療の難しい場合は市民病院で対応します。



医療機器のスペシャリスト
(この日のエンジニア)

今回から数回にわたり、臨床工学科の業務について紹介させていただきます。

臨床工学技士とは

CE (Clinical Engineer) と呼ばれ、当院には18人の臨床工学技士がMEセンター、透析室、手術室、ICU、血管造影センターなどに勤務しています。臨床工学技士は生命維持管理装置の保守点検や医師の指示のもと医療機器の操作を行うことを主な業務としています。生命維持管理装置とは、人の呼吸、循環、代謝など生命維持に必要な機能を代行する医療機器のことで、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置などがあります。これらの医療機器は365日24時間、院内のあらゆる部署で使用されているため、私たちは安全かつ効率よく運用するだけでなく日々複雑多様化する臨床技術に対応し医療機器のスペシャリストとしてチーム医療に貢献しています。

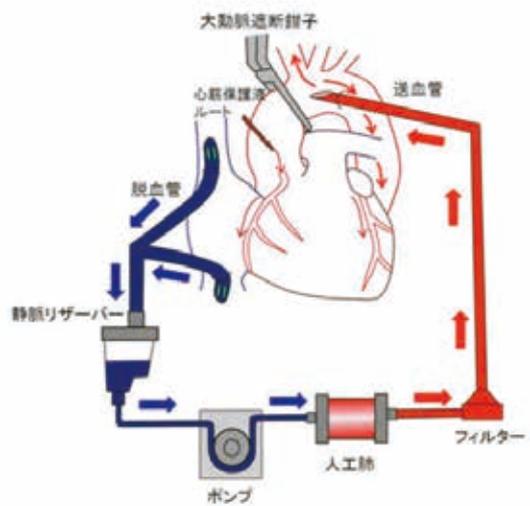
臨床工学科の業務

臨床工学科では大きく分けて治療や検査にかかわる臨床技術提供業務と医療機器を安全に使用するための医療機器保守管理業務があります。

人工心肺装置

臨床技術提供業務の一つに人工心肺装置操作があります。心臓および大血管の手術(冠動脈バイパス術、弁膜症、大動脈解離など)を行う際

人工心肺回路と心臓手術の流れ



に使用する人工心肺(体外循環)と呼ばれる装置が必要になります。

全身から心臓に戻ってくる血液を、上下大静脈に入れたカニューレと呼ばれる管から、一旦体の外に導き、心臓のポンプ機能を代行する「血液ポンプ」に入ります。そのポンプの力で、「人工肺」に入室します。そして、血液から二酸化炭素を排出し、酸素を得ることができます。

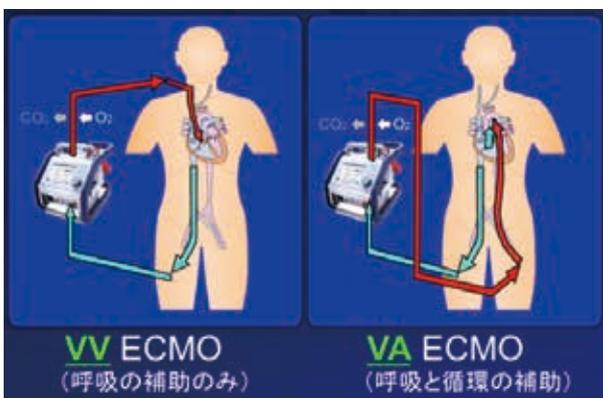
人工肺により酸素化された真っ赤な動脈血は、大動脈につながれた管から全身に送られます。この人工心肺装置により、心臓手術中は自分の心臓と肺の機能は代行され全身の血液循環を保つ事が出来ます。医師の指示のもと心臓手術中の人工心肺装置操作を行っています。これらの操作を安全に行うために6名が体外循環技術認定士を取得しており、日々知識・技術向上に努めています。

ECMO (Hクモ)
(extracorporeal membrane
oxygenation 「体外式膜型人工肺」)

救急治療の中に人工心肺装置とよく似た体外循環装置があります。その装置は人工呼吸器や昇圧薬など、通常の治療では救命困難な重症呼吸不全や循環不全に対して、使用されるのがECMO(人工肺と血液ポンプを用いた体外循環回路による治療)です。

ECMOは呼吸と循環に対する強力な対症療法です。通常の治療では直ちに命を落としてしまう、または重要な臓器に傷害を残すような重症呼吸・循環不全患者に対し、回復するまでの間、呼吸と循環の機能を代行する治療法です。

この装置の操作・維持管理を臨床工学技士がICU(集中治療センター)で治療中



は24時間体制で行っています。昨今、世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスによる重症呼吸不全の治療にも使われているのが知られています。

糖尿病サポートチーム

糖尿病サポートチーム



糖尿病サポートチーム

糖尿病と上手に付き合うために

昔は目が見えなくなってしまうから、透析が導入されてから、足を失ってからの、「あなたは糖尿病です。」と初めて病気を伝えられた方々も多かったようです。しかし、その段階でわかったとしても、視力や足は戻ってきませんし、透析をやめるわけにはいきません。「もつと早く知っていたら、こんなふうになる前に、きちんと治療をしていたのに」と後悔される方もたくさんいらっしゃいました。現在では、このようなことができるだけ起こらないように、検診や、かかりつけ医で血糖値を測り、糖尿病の早期の診断と、合併症の予防のための早期の治療を開始しています。そして、患者さんが糖尿病と上手にお付き合いし、合併症を

十分に予防できるように、糖尿病サポートチームでは様々な取り組みを進めています。

糖尿病サポートチームの活動

患者さんの価値観や社会状況を考慮した、実現可能な具体的な方法の提案を心がけています。そのために、医師と管理栄養士、薬剤師、看護師、検査技師、理学療法士で協力して各々の専門性を生かした包括的な支援を行っています。

フットケア外来

足壊疽の予防のためには、日々の足のケアが必要です。専任の看護師が患者さんの靴下をめぐって生の足を見て、触って（神経障害の確認）、足の切断の予防のための具体的なアドバイスを行っています。

栄養指導

「では、次回まで食事を頑張ってくださいね。」とただ言われても、患者さんは困ってしまいます。管理栄養士が患者さんの食習慣を十分に把握して、改善できそうなポイントを継続可能な方法で提案しています。

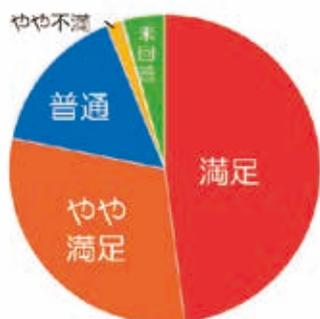
減量手術

既存の方法では健康を取り戻すことが難しくなった高度肥満症の患者さんを対象に、減量手術を行っています。詳細は当院のホームページで確認ができます。

市民公開講座 糖尿病とともに

私たちは地域の方々の糖尿病の知識の向上のために、毎年3回、市民病院の講堂で「糖尿病とともに」を開催しています。「合併症は、『えのき』と『しめじ』で覚えましょう。血糖値の正常値（70〜110）はセブン・イレブンで・いい気分です。」と、わかりやすい説明を心がけています。第16回まで、およそ七百名の方に参加をして頂き、多くの方に満足して頂いております。

市民公開講座 アンケート結果 (695名)



糖尿病の合併症



『しめじ』 神経障害 目 腎臓



『えのき』 脳梗塞 足 狭心症

当院では、意見箱を設置し、来院者の方からのご意見、ご要望に対してできる限りお応えできるよう努めています。そこで、お寄せいただいたご意見、ご要望の一部を紹介させていただきます。

《いただいたご意見》

会計コーナーに幼児が読める本などを置いてもらえると助かります。



《ご意見に対するお答え》

医事課・患者支援センター

この度は、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

会計付近には、患者ライブラリーが設置しており、「がん」や「医療」に関する図書を設置しております。

書籍数につきましては、幼児向けの図書を含め、まだまだ十分ではなく、現在も書籍の追加購入に向けて、検討を進めております。

いただいたご意見につきましては、今後の選書の参考にさせていただきます。

小牧市民病院の基本方針



1. 医療の質の向上

職員は自らの専門性を高めつつ、安全で質の高い医療を追求します。

2. 患者本位の医療の実践

「恕」の心で患者さんの立場に立った思いやりのある医療を行います。

3. チーム医療の強化

コミュニケーションを良好にし、患者さんを中心としたチーム医療を推進します。

4. 医療人の育成

働きがいのある病院づくりに努め、地域医療を支える優れた医療人を育成します。

5. 地域社会への貢献

急性期医療を担う中核病院として、地域社会のニーズに応える病院事業を推進します。

6. 地域医療連携の推進

地域完結型医療に向けて、地域の医療機関との役割分担・連携を推進し、地域の医療水準の向上を目指します。

7. 健全な経営

医療情勢の変化に対応し、安定した経営基盤の確立を目指します。

臨床研修理念

・「恕の心」を持って、謙虚、感謝の念を忘れずに、プライマリ・ケアの診療が出来る医療人を育成します。

臨床研修の基本方針

- (1)医療の本質の「仁」と「尽」を理解し、人格のかん養に努め、患者・家族中心の医療を実践します。
- (2)チーム医療の重要性を理解し、他者からの意見を真摯に受け入れた医療を実践します。
- (3)常に最先端の医学的知識の習得を心掛け、最善の医療の提供に努めます。
- (4)地域医療に参画し、全人的医療を実践します。

